

事例 1

コーディネーター名	齋藤 恵美子	活動学校	宇都宮市立晃陽中学校
コーディネーター歴	7年目	経 歴	元保護者（PTA 役員）

1 コーディネーターを始めるきっかけ

宇都宮市が各学校に「魅力ある学校づくり地域協議会」を設置するのに伴い、晃陽中学校でもコーディネーターを配置することになり、PTA役員をやっていたことがきっかけでコーディネーターとして活動することになった。

2 コーディネート活動の概要

地域協議会のコーディネーターは 3 名である。活動内容は、「サポート会」活動の企画、活動ボランティアの募集、連絡調整、活動の運営補助等である。また、ボランティアの活動を保護者・地域住民に広く発信する「サポート会だより」の作成や「サポート会」の会計、事務書類の作成、会議の運営補助等も行っている。会計等の事務的な内容は 3 名で分担し、助け合いながら活動している。

「サポート会」は、晃陽中学校地域協議会の愛称であり、地域の代表として学校とともに学校経営の理念である「生徒が安心して力を発揮できる学校を目指す」の実現のため、教育の在り方を追求し支える団体として活動している。具体的な活動内容は、学校畑のうね作り、グリーンカーテン作り、宿泊体験学習の支援、先生の研究授業時の自習見守り活動等である。

○自習の見守り活動

先生たちが研究授業で他の授業を見るため自分の授業を自習にしなければならないとき、地域のボランティアが各教室に入り、生徒の自習を見守るという活動である。ボランティアが生徒を見ているため、先生たちも安心して研究授業に参加することができ、授業力の向上を図ることができている。



見守り活動の様子

3 コーディネート活動がうまくいくためのポイント

① 学校からの支援

■ 活動への理解

学校は、「サポート会」の活動を理解してくれており、学校長がコーディネーターの相談によくのってくれている。

■ 保護者・地域との信頼関係づくり

コーディネーターとして活動していると、保護者や地域の代表等から学校への要望や意見を相談されることがある。それらの要望・意見に対して、学校はよく話を聞き、対応してくれるので助かっている。コーディネーターとしては、学校からの意見や情報も保護者・地域に伝え、学校・保護者・地域のコミュニケーションがよくとれるように心がけている。

② エ夫していること

■ 活動を始めるまで

コーディネーターを始めた頃は、学校で地域と連携した活動が行われておらず、ゼロからのスタートであった。「どうやって活動を始めたらいいいのか」、「他の学校でやっている活動を自分の学校でもやらなくては…」というプレッシャーばかり感じていたが、最初の 2 年はまず学校の状況を把握すること、PTA や地域団体の意見を聞くことから始めた。PTA の役員をしていたこともあり、先生と話をする機会は多かった。話をして、信頼関係ができてくる中で、学校から「こんな活動ができないか」といった要望が聞けるようになり、活動につながっていった。

■ 負担にならないように大切にしていること

先生も保護者も地域の方々も皆余裕がないと感じる。保護者や地域の方々の多くは仕事や生活が忙しく、また時間的に少し動ける方もPTAや地域の団体活動等でいろいろな役職をいくつも担っており、これ以上何かを強いるようになると負担になってしまうと感じている。先生も学校の業務が忙しく、時間的な余裕がないのが現状である。このような中、「サポート会」の活動として何か新しい活動を生み出していくことは難しい。そこで、新しくいろいろな活動を立ち上げるのではなく、学校が安心して教育に打ち込める環境づくりを応援するために、今ある学校の活動の中から地域や保護者が支援できるものを厳選し、「サポート会」の活動内容としている。

■ ボランティアを集める際に工夫していること

3年前に活動ボランティアを募集したところ、ボランティア団体が立ち上がり、現在は20名が活動している。ボランティア募集は年に一度、新入生の保護者に対して入学式で説明・募集するとともに、随時ボランティア同士で顔見知りにならざるを得ない状況で募集している。ボランティアは「やらされている」と感じてしまうと拒否反応を起こしてしまう。活動の趣旨(本当に子どもたちのためになることだけをやる)を理解してもらい、自主的にやりがいを持って取り組んでもらうことが長く続くポイントだと思う。決して無理強いせず、年に一度でもいいから活動に来てもらい、楽しさを感じてもらえるよう心がけている。やりがいや楽しさをわかってもらうことで活動が口コミで広がり、ボランティアも少しずつ増えてきている。

■ 活動しやすくなるために工夫していること

- ・ボランティアとして親が学校に来ることに抵抗を感じる子どももいる。なるべく自分の子どもがいるところにはボランティアに入らないように配慮している。
- ・自分自身がコーディネーターの活動を負担に感じないように、コーディネーター同士でやることを分担するようにしている。また、先生、保護者、地域の方々にまず活動を知ってもらい、理解者を増やすことが大切だと考えている。

4 コーディネーターとしてのやりがい

今活動している内容は、すべて「子どもたちのためになること」である。やらなくてよいこと、余計なことはやらずに、本当に必要なことだけをやっているという思いがある。この思いがあることで、傍から見れば大変に感じることも大変だとは思わず、楽しく活動できている。

5 活動上の課題

現在、特に課題と感じていることはない。今後も、学校とよく連携を図りながら、生徒が安心して学べる環境づくりを目指していきたい。

6 その他

- ・コーディネーターの活動を充実させるために、コーディネーター同士が互いの活動を知り、意見を交換できる情報交換の場は大切である。宇都宮市では、市がコーディネーターを対象とした研修を実施してくれているのでありがたい。
- ・他の学校のコーディネーターから話を聞くと、活動について学校から何の要望もないところもあるようである。コーディネーターの中には何をしたいのか、どうやって始めたらいいのか等がわからずに迷っている人もいて、学校から困っていること、協力してほしいことを率直に言ってもらえた方が活動はしやすくなる。先生とコーディネーターが、学校の課題や地域にできる支援等について一緒に話し合い、考えることができる場を持つことが大切だと思う。
- ・すべての先生が地域連携の意義をよく理解してくれなければ、活動はうまく進まない。地域連携教員が、他の先生とコーディネーターがつながる機会を作る等、先生の理解が深まるような活動をしてもらえるとうい。